

「世界史B」	単 位 数	3 単 位
	学科・学年・学級	普通科 第2学年1組～4組

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	世界には歴史的に価値観の異なる人々が生活し、現在でも国際対立が残存しています。世界史を学ぶことにより、同じ地球に暮らす一人の人間として、民主的で平和的な国際社会の実現のため、主体的に生きる自覚と資質を養うことが目標です。
使用教科書・副教材など	教科書：第一学習社「高等学校 改訂版 世界史B」 資料集：帝国書院「明解世界史図説 エスカリエ」

## 2 学習計画及び評価方法等

## (1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 (学習活動の特記事項, 他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)	考 査 範 囲
第 1 学 期	人類の誕生と文明の誕生  西アジア・地中海世界	4  5	人類進化の過程について基礎的な知識を身につける。  西アジア世界・地中海世界が最終的にローマの世界帝国に統一され、さらにそれが崩壊するまでの過程を理解する。	視聴覚教材の活用を心がける	中 間 考 査
	南アジア世界の形成	6  7	南アジア社会の成り立ちには宗教が特に大きくかかわっていたことを理解し、その観点から歴史の大まかな流れをつかむ。	視聴覚教材の活用を心がける	期 末 考 査

【課題・提出物等】授業ノート、課題（プリント、レポート）など。					
【第1学期の評価方法】 考査評価、授業ノートや課題の提出状況などを総合的に評価。					
第 2 学 期	東アジア・内陸アジア世界の形成	9	中国をはじめとした、アジアの諸民族や国際関係について学習する。	視聴覚教材の活用を心がける	中間考査
	イスラーム世界の形成と拡大	10	イスラーム世界の成立と発展を、世界史的視野に立って捉える。		
	ヨーロッパ世界の形成と変動	11	現在のヨーロッパ諸国の基礎が中世に作られたことを理解する。	視聴覚教材の活用を心がける	期末考査
	内陸アジアの動向と諸地域世界	12	中国周辺地域や内陸アジアの諸民族が東アジア全体に勢力を広げ、ユーラシア世界帝国が作られていく過程について理解する。		
【課題・提出物等】 授業ノート、課題（プリント、レポート）など。					
【第2学期の評価方法】 考査評価、授業ノートや課題の提出状況などを総合的に評価。					
第 3 学 期	アジア諸帝国の繁栄と成熟	1	ユーラシアの世界帝国の崩壊後に、各地域を統合するような帝国が生まれたことを理解する。 ヨーロッパが他の地域世界へ進出する過程、ヨーロッパにおける中世世界の崩壊と主権国家の成立を理解する。	視聴覚教材の活用を心がける	学年末考査
	ヨーロッパの拡大と大西洋世界	2			
	ヨーロッパ主権国家体制の成立	3			
【課題・提出物等】 授業ノート、課題（プリント、レポート）など。					
【第3学期の評価方法】 考査評価、授業ノートや課題の提出状況などを総合的に評価。					
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の評価を総合し、出席状況や下記の各観点から、年間の学習成績を、総合的に判断、評価する。					

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の話に、よく耳を傾けましょう。</li> <li>・ 教科書をよく読んで、写真等の資料にも、視線を注ぎましょう。</li> <li>・ 自宅で復習をしましょう。</li> </ul>
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書・ノートは必ず持参しましょう。</li> <li>・ 授業は常に真剣に聞き、板書事項はきちんとノートに取りましょう。</li> <li>・ 期限等を守って、提出物をきちんと提出しましょう。</li> </ul>

## (2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	授業をきちんと聞き、ノートをとっているか。質問に答えたか	ノート提出など。
思考・判断	自分の考えをもち、論理的にのべているか。	提出されたレポートの内容 考査時の論述問題など。
資料活用 の 技能・表現	プリント・資料集をきちんと読み解くことができたか。	プリント提出など。
知識・理解	世界史の知識が、身についているか。	考査の一般問題。

## 3 担当者からのメッセージ

今の複雑な世の中を、これから長い間生きていくときに、みなさんが出会うかもしれない諸問題を解決するための、「判断材料」の一つになるモノが、『歴史的思考力』だと思います。

「歴史を学ぶ」だけでなく、「歴史に学ぶ」「歴史で学ぶ」(=歴史を題材にして現代社会や自分自身について考える)という姿勢を大事にして、さまざまな角度から世界の歴史を見つめて、みなさんが持っている『歴史的思考力』を、よりパワーアップしていきましょう！